

三重県総合文化センター向け舞台機構

三重県総合文化センターは、三重県の文化振興の拠点となる施設として建設され、文化会館・図書館・生涯学習センター・女性センターの四つから構成される複合文化施設である。当社は文化会館のなかの中ホール及び大ホールの床機構を担当し、平成6年6月に引渡しを完了した。

なお、当ホールは、舞台機構に日本で初めて本格的な油圧駆動方式が採用されたものとして、画期的なホールである。

1. 中ホール舞台機構の特徴

中ホール床機構の主要設備概要を表1に示す。

中ホールは演劇を主体とするホールで客席が一千席の規模ながら舞台の面積が客席の面積よりも大きい、国内でも有数の舞台設備となっている。図1に床機構の概念図を示す。

- (1) 主舞台に直径16.2mの回り舞台があり、その中に大迫り・小迫り各2台が内蔵され多彩な演出及び場面転換を容易にしている。
- (2) 下手側舞台にはスライディングステージが設置され、大迫りが下降した後の開口をふさぐ形で主舞台に移動して、場面転換数を増やすとともに迅速な転換を可能にしている。
- (3) これらの機器は高速仕様でかつ油圧駆動あるいは静音型インバータモータ駆動によるので、静粛な動きを観客の目の前で動かして見せられ、より高度な演出を可能にしている。

表1 中ホール床機構 主要設備概要

名 称	寸法(m)		台数	駆動方式	速 度 (m/s)
	幅	奥行			
回り舞台	直径16.2		1	油圧モータ	0.12~1.2 rpm
大 迫 り	10.8	3.6	2	油圧シリンダ	0.03~0.3
小 迫 り	3.6	1.8	2	油圧シリンダ	0.03~0.3
スライディングステージ	10.8	3.6	2	電動モータ	0.06~0.6
オーケストラ迫り	約22	約6	1	油圧シリンダ	0.03
脇花道迫り	1.5	約6	2	油圧シリンダ	0.03

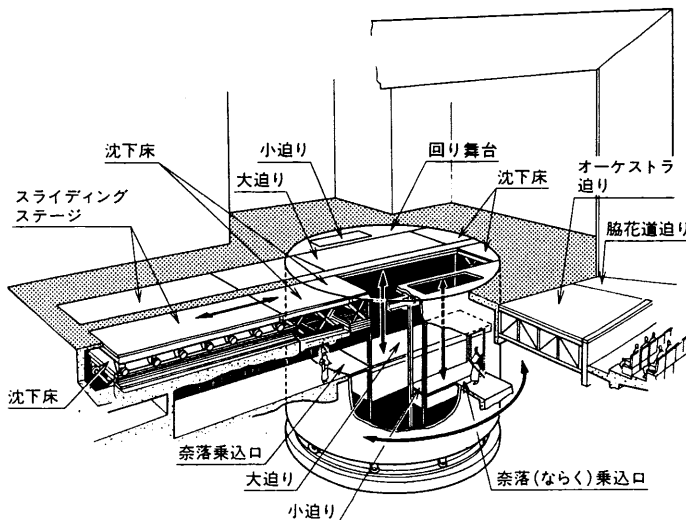


図1 中ホール床機構概念図

- (4) スライディングステージ2台は回り舞台が正盆・裏盆にかかわらず移動し、側舞台に戻るときにはその2台が入れ代わってもよいように制御を工夫して、運用に柔軟性をもたしている。
- (5) 舞台前には脇花道迫りを組込んだオーケストラ迫りが設置され、舞台・客席/花道・オーケストラピットと多彩な使用が可能になっている。
- (6) 高度な演出を実現するために、以上の機器はコンピュータ制御による記憶運転が可能となっている。

2. 大ホールの舞台機構の特徴

大ホールは音楽を主体とする客席二千席規模のホールである。

舞台と客席とがプロセニウム（額縁）によって区切られている形式はクラシック音楽・コンサート等には音響性能上不利であるとされているが、走行式音響反射板（音響シェルタ）によって最適なシューボックス形式への転換を可能にしている。音響シェルタは、通常後舞台の一番奥の位置に最小スペースで収納されるが、使用時は図2のように舞台前方へ移動し、客席空間と一体となった演奏空間を形成する。

- (1) レール走行方式であるので、転換は短時間の作業で済みかつ再現精度が良い。
- (2) 3台の音響シェルタにより演奏空間は幅18.0~11.2m、奥行12.5~5.6mの間で4種類のパターンに可変。これにより大編成オーケストラから室内楽・リサイタル演奏まで幅広い対応を可能にしている。

（神船 鉄構部劇場・ホール施設設計課 皆木）
☎ (078) 672-5554

本社営業窓口 鉄構建設事業本部 レジャー・流通施設部
☎ (03) 3212-9142

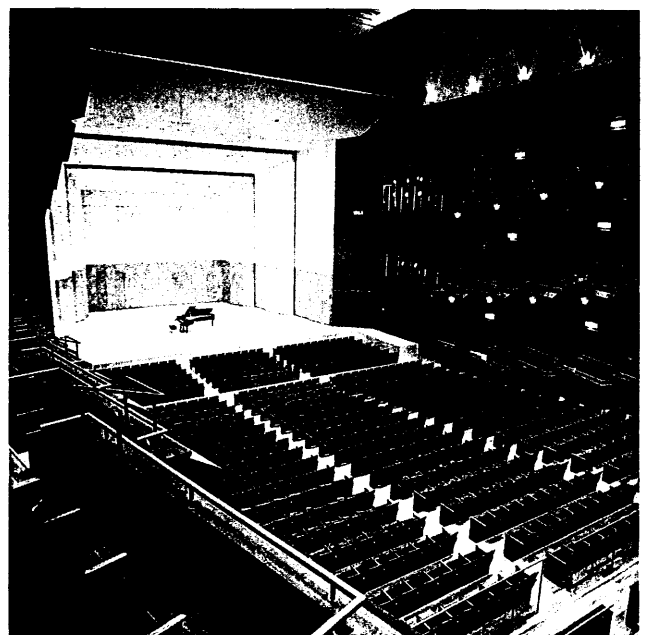


図2 大ホール走行式音響反射板（セット時）